

小学校と大学が連携して行う e ラーニング

－ 児童の学習意欲向上を目指した IT の活用事例 －

江東区立東砂小学校 教諭 小島 崇義
uniontk@ybb.ne.jp

目黒区立東根小学校 教諭 菊地 秀文
kikuhide@mac.com

首都大学東京 准教授 北澤 武
kitazawa@tmu.ac.jp

首都大学東京 教授 永井 正洋
mnagai@tmu.ac.jp

キーワード：小学校，大学，e ラーニング，学習意欲，教育実践

1. はじめに

e ラーニングは企業や大学等では、導入が進み成果も得られるようになってきた。しかしながら、初等・中等教育においては、あまり広がりを見せていない。一つには、学校は、face to face で共に学ぶ場であることから、遠隔教育が謳い文句である e ラーニングが、あまり馴染まないのかもしれない。しかしながら、授業支援や家庭学習の目的でコースウェアを配置し、成績評価等の学習管理などを考えた場合、利用価値は大きい。また、学校単位でのシステムの導入は経費の面で、困難が伴うことが予想されるが、本発表のように地域の大学と連携し、市町村単位での導入を検討すれば、打開策となると考えられる。

2. e ラーニングコンテンツの概要

2.1 e ラーニングの導入と利用

本実践に活用した e ラーニングシステムは、首都大学東京の情報教育等で利用しているブラックボード (Blackboard Academic Suite™) の一部を提供いただいた。e ラーニングシステムのサーバは首都大学東京に設置されているが、小学校からは大学のサーバにアクセスすることで、容易に利用できた。利用 ID は教員、児童数分発行し、URL を保護者に明示することで、ネットワーク環境が整った家庭からもアクセス可能とした。

2.2 e ラーニングコンテンツの内容

本実践は、3 年生の児童を対象とした。対象とした小学校では、日頃より IT 教材を活用した教育に取り組んでいた。しかし、これまで活用してきた IT 教材は、授業限定で使用されていた。そのため、児童や保護者などから、「授業時間外で IT 教材を利用したい」という、強い希望が存在していた。

そこで、e ラーニングコンテンツの内容として、授業で活用した IT 教材のうち、著作権の認可を得ることができたサイトについて、そのリンクを張ることにした (図 1)。その結果、児童はいつでもどこでも、ブラックボードを介して、授業で活用した IT 教材が利用できるようになった。さらに、授業で利用した IT 教材を、休み時間や放課後など、授業時間外に繰り返し閲覧したり、利用したりすることによって、学習意欲や学習効果を高めることが期待された。



図 1 e ラーニングコンテンツ例

3. 各教科における e ラーニングを活用した教育実践例と児童の反応等

3.1 国語

児童が作成した漢字の問題 (同じ読み方で違う意味の漢字) をコンテンツとして掲載した (図 2)。その結果、授業前にその作品を確認することが可能になったため、授業が始まるとすぐに、その作品について議論できるようになった (写真 1)。今後、例えば掲示板機能を使って、児童の作品に対するコメントを他の児童が自由に記述できるような、ネットワークを介したコミュニケーションを実現させたい。

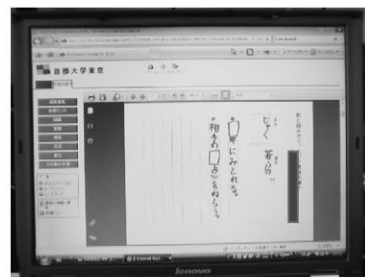


図 2 児童が作成した漢字の問題

